

238 福島県会津地方 本名凝灰岩の層序と構造について

小室裕明(埼玉大学・教育)

福島県会津川口地域には、中部中新統の滝沢川層を不整合におおって、石英安山岩質凝灰角礫岩を主体とした本名凝灰岩が分布している。川口西部の地域では、本層基部はきわめて急傾斜をなしている。この地域の基盤の滝沢川層は、本名凝灰岩との境界部付近で破碎をうけた状態になり、また、本名凝灰岩基部の不整合に平行するいくつかの高角断層が基盤中にみられる。一方、本名凝灰岩および他地域の基盤には、このような断層や破碎帯はみられない。したがって、本名凝灰岩の堆積盆地の形成に関連して、同層堆積直前に断層活動があったことが推定される。また、この地域の本層基部には特異な礫岩が発達している。これは、礫種がすべて基盤の滝沢川層に由来する緑色凝灰岩ならびに流紋岩からなり、礫の形態は角～亜角礫である。淘汰度はきわめて低く、また、径数cmに達する巨大な礫をひじょうに多く含んでいる。このような礫岩の特徴は、礫をもたらした後背地に急峻な地形的高まりが存在したことを示している。この地形は、上のべたような、堆積盆地の形成に関連した断層活動による断層崖と推定できる。したがって、本名凝灰岩は、断層活動による陥没性の盆地に堆積したものと考えられる。一方、川口以南の地域では、本層は基盤上に緩傾斜の不整合関係で重なっており、このようなところでは不淘汰角礫からなる基底礫岩はみられない。

本層は沼沢火山火砕流堆積物によっていちじるしい不整合におおわれており、両者の分布の中心もずれている。さらに、本層は沼沢火砕流に比べると固結度も高く、また凝灰角礫岩の岩相もひじょうに異なる。このことから、本名凝灰岩と沼沢火山は一連のものではないと考えられる。